

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA オンラインアジア大会(動画審査) 総評 ショパニスト B 部門

●審査員 A

音楽に対する皆さんの献身的な姿勢には、本当に頭が下がります。皆さんの人生の中で音楽がとても重要な部分を占めていることが伝わってきます。日々の練習の中で、何が一番大切なのか、悩むこともあるでしょう。ピアノに向かう時間を最重要視することもあれば、いろいろな技術的な練習をすれば、早く上達するのではないかと考えることもあります。また、競争することが目標だと思える日もあります。これらはどれも正しく、また私たちの上達の助けとなるでしょう。しかし「自分は音楽が大好きだから音楽を演奏しているんだ!」という気持ちに勝るものはありません。これから先、ピアノの前に座って音楽を奏でるとき音楽の持つ癒しの力や美しさを感じてほしいと思います。

●審査員 B

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会へ進出された皆さん、おめでとうございます。ショパン愛好家の皆さんが、ショパンの音楽への愛を観客と分かち合おうとしているのを見るのは、とてもうれしいことです。また、演奏に向かう姿勢も好感が持てました。音響や使用するピアノが異なるため、演奏の比較に苦労しましたが、演奏者から提供されるものと、録音条件に属するものを分けて考えるようにしました。プロフェッショナルな録音環境を設定しようとされた皆さまの努力に感謝いたします。

今後のアドバイスとして、技術的な側面から作品を見るだけでなく、全般的な音楽言語をより深く理解することに努めてみてください。和声、形式、ポリフォニックな構造を分析し、作品について調べることが、説得力のある解釈を生み出すことに繋がります。また、大きな形式の作品よりも小品を選んだ方がいい場合もあります。コンクールでは、多くの参加者が同じ曲（バラード ト短調 作品 23 など）を選び、審査員が最終的にあまり演奏されない作品の演奏を評価することがよくあるためです。

これからも、沢山の喜びと充実感を感じピアノを弾いてください。そして、次回のショパン国際ピアノコンクール in ASIA でも、ぜひ演奏を聴かせてください。

●審査員 C

親愛なる参加者の皆様、コンクールでの演奏と、アジア大会への出場権を獲得されたことにお祝い申し上げます。皆さんの演奏をとても楽しく聴かせて頂くとともに、コンクールの準備に費やされた膨大な労力に敬意を払いたいと思います。

アジア大会に参加されたほぼ全員が、非常に高いピアノの技術をお持ちで、綿密に準備されてきたと感じました。皆さんが今後更に芸術的な研鑽を積まれる上で、是非ご検討頂きたい点についていくつか述べたいと思います。

全ての演奏を聴いてまず思ったのは、曲の内容や感情の深さにもっと関わろうとする姿勢が必要である

ということです。皆さん素晴らしいピアノテクニックをお持ちですので、作品をより深く掘り下げ、より細部まで解釈し、「自身が作品をどのように理解していて、音楽を通して何を表現したいのか」を示すことができると思います。ただそのためには、ある程度の創造性と芸術的な想像力が必要です。

もうひとつ重要なのは、音質へのこだわりです。特にフォルテの音量で表情豊かなクライマックスを構築しようとするとき、芯のある音で支えなければなりません。これは自然で適切な方法です。しかし、特にショパンの作品においては、それは決して硬くて耳障りな音ではなく、深くて高貴な音でなければならないのです。音に敏感であるということは、その美しさを追求するだけでなく、多様な音色へのこだわりと、楽器から様々な音色を引き出そうとすることであり、その結果、異なったアーティキュレーションを使用することになります。ショパンが好んで使ったアーティキュレーションは、レガート・カンタービレでした。もうひとつショパンがよく使ったアーティキュレーションは、レグジェーロです。今回のコンクールにおいて、特に歌うようなノクターン、抒情的なバラード、その他舞曲などで、これらの2つのアーティキュレーションは、あまり聴こえてきませんでした。異なったアーティキュレーションや多彩な音色を弾き分けることは、様々な音の層を生み出すと同時に重要な声部を強調し、それらが適切なバランスで聞こえるようにすることです。全ての音が同じように重要であるということは決してありません。ある音が目標であるならば、他の音はその目標へと導く役割があるのです。

また、自然なアゴーギクについても改善の余地があると思います。音楽の中で時間をどのように使うかということは、表情やクライマックスを作り出したり、作品を自然な語り口（ナレーション）で演奏するためにとっても重要です。ショパンの使った、美しくも難しい「テンポ・ルバート」という言葉には、多くのことが含まれています。もちろん、これは「均等」という意味ではありません。自然に表現するために、より深い呼吸、落ち着き、そして時にはせつちちな「*stretto*（ストレット）」となることもあります。しかし、これらはどれも、一続きの語り口や長いフレーズを崩さずに奏されなければなりません。

もうひとつ、コンクールでの演奏に関連して触れておきたいのは、楽譜を正しく読むということです。まず1つ目は、強弱、アゴーギク、アーティキュレーション記号を直訳しすぎていることです。スタッカートやアクセントをどのように弾くかということは、曲の内容や性格に大きく左右されることを覚えておいてください。ピアノとフォルテの音量では、アクセントの弾き方も変わってきます。また、叙情的なワルツと生き生きとしたオベレクでは、スタッカートの弾き方も変わります。2つ目は、文字通り、楽譜に書かれている音とリズムを正しく読んで弾くということです。音符の読み間違いで和声が大きく変わり、音楽的な意味も変わってしまった演奏がありました。今私たちは多くの版や録音に接することができるので、このような初歩的なミスは簡単に確認することができるはずですが、逆に言うところのようなミスは楽譜を表面的にしか読んでいないということを表していると思います。

もちろん、聴衆のいない場所でコンサートの雰囲気もないまま、カメラとマイクに向かって演奏することは、簡単なことではないでしょう。それでもなお、ピアニストの皆さんが「生」で音楽を創る喜びやインスピレーション、そして自分自身の中にある自発性を見出し、自分の音楽的個性を発見できることをお祈りしています。

●審査員 D

全体的に演奏の出来がとてもハイレベルで流石はファイナルだと感じました。特筆すべきは演奏の為の環境整備が万全で良い楽器で良い録音録画で一つの作品を仕上げると言う拘りを感じました。又演奏からはストレートに作品に対する共感や感動が伝わりました。

パーフェクトな仕上がりには技術が追いついていないケースも有りましたが、表現したい内容は十分に伝わったと思います。引き続き数多くのショパンの作品に取り組んで様々な表現力を身につけて欲しいと感じました。

●審査員 E

部門の特性上多彩な演奏があり、それぞれ皆さんよく弾かれていました。その中で感じたことは、音楽の大きな構成に対するイメージをもっとしっかりと持つようにすると、さらに表現力が上がり、聴き手に音楽を伝えることができるようになるということです。細部はもちろん大切なのですが、フレーズごとにテンポが大きく揺らいでしまったり、音楽の流れが止まってしまったり、またリズムの躍動がなくなってしまうことがないように、それぞれのパーツをどう全体像として描いていくかを構築していくと良いでしょう。そして、音楽をこれからも生きる上での良き伴侶として楽しみながら長く続けていってください。

●審査員 F

音量・音質も良く、間のとり方も素晴らしい方が多かったですのですが、小さいミスが惜しい人もいました。指先の力がそろろうと音の粒もそろろうのと、フレーズの最後の切り方、又、フレーズを長く引っぱってメロディが歌えるともっと良くなると思いました。全体的に皆様良く弾いていらっしゃり、すばらしかったです。